

研究代表者 所属・職：健康科学部・准教授

氏 名：坂口 大史

研究課題名：半田市亀崎町における Youtube チャンネルを活用したまちづくり活動による地域活性化と地域活性化に関する効果の実証

## 研究の概要

現代の地域社会では、少子高齢化、中心市街地の衰退など地域によって様々な課題がある。これら地域がもつ課題に対して、大学が地域のニーズへの確に応えていく重要性が増している。その一方で、昨年から世界各地で蔓延する新型コロナウイルスによって、本研究の対象地である半田市亀崎町でも、世界ユネスコ無形文化遺産に登録された「潮干祭」や各行事がほぼ全て中止になるなど、地域の活動が実施できない状況である。現状では、従来の地域活動の展開が困難になっている状況であり、少子高齢化は進行し地域の賑わいが失われている状況である。

地域活動を展開する上で、新型コロナウイルスの状況を見極めながら活動を行う必要がある。そこで、本研究では、Youtube チャンネルを活用したオンライン活動と対面式による少人数のワークショップ等を組み合わせる方法とその効果の実証することを目的とする。

## 達成状況・成果内容

### 1. オンライン動画と対面式ワークショップを組み合わせた新しいまちづくり活動の展開

本研究では、2021年7月に亀崎町の小学生80名による、オンライン活動と対面式を組み合わせたワークショップを実施した。

### 2. オンライン動画を活用したまちづくりの効果に関する具体的なデータの収集と検証

本研究によって、オンラインを活用したまちづくり活動が地域の中で日常的に展開され、これまでにない新しいまちづくり活動が具体例と共に実施された。さらに、本研究では、オンライン動画を視聴する群と視聴しない群の2群を用意して、効

果について実証した。結果として、オンラインを視聴した群では、作業効率やワークショップ内での交流の面で、動画を視聴していない群に比べてスコアが高く、オンライン動画活用の効果が示された。

### 3. オンライン動画を活用したまちづくりに対する多世代の意見集約と最適な動画の検討

本研究で活用するオンライン動画について、小学生4-6年生及び20代~70代の住民に対してアンケート調査を行った。結果として、小学生では全ての年代で、地域に対する愛着や興味が向上した。また、30-50代は仕事や趣味など個々の活動に興味を示していた一方で、60代や70代になると地域への愛着が強く、次世代が活動を展開する期待を強く抱いていた。

## 今後の展望

### 1. ポストコロナを見据えた新しいまちづくりの実践

本研究で得られた成果として、まちづくりにおけるオンライン動画の活用は、対面式のワークショップを行う際にも効果的であることが示された。これより、対面式の活動前後にオンライン動画を取り込むことで、新しいまちづくりモデルの実践が可能となる。

### 2. 多世代におけるオンライン動画を活用したまちづくりの展開と効果の検証

本研究では、ワークショップの対象は小学生に限定した。今後の展望として、20代-70代など幅広い世代を対象とし活動にすることで、オンライン動画の有用性についてより有益なデータが収集することができる。

### 3. 新しいまちづくり活動の他地域への展開

本研究で取り組んだ、オンライン併用型のまち

づくり活動は、亀崎地区のみならず様々な地域で展開可能と考えられる。よって、半田市の他地区へ活動を展開していくのは地域活性化のみならず、住民間の多世代での交流を促進する面でも効果的である。